

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298800077		
法人名	株式会社 ケアサービス・まきの実		
事業所名	グループホームやつかガーデン		
所在地	千葉県南房総市富浦町深名656-1		
自己評価作成日	平成25年3月14日	評価結果市町村受理日	平成25年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成25年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

やつかガーデンでは認知症があっても「その人らしく」過ごせ居心地が良いホームを目指しています。
 変化する利用者様に合わせ、どうすれば「居心地」がよくなるか職員の気付きを大切に、創意工夫を業務に取り組み職員も一緒に成長できるようにしています。
 職員にとっても安心して力を発揮できるように自立型の人材を育成しサポートしあえる充実した職場環境を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設3年目の新しいグループホームで、若い管理者を中心に、「基本にたちかえる(考える、行動する、振り返る)」の事業所目標のもと、全職員が、利用者のニーズに合わせた支援に取り組んでいる。職員が明るく、仲がいいのでホームも明るく暖かな雰囲気になっている。同じ建物内にデイホームがあり、その利用者と一緒にお茶飲みしたり、合同行事を開催し、日常的に交流している。昨年法人内ネットワーク構築により、タブレット端末などを利用した情報入力ができ、過去のデータ検索などが容易で、リアルタイムでの情報共有化ができる環境が整った。当ホーム職員はIT環境をフル活用して日々の支援に生かしており、ホームの強みとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所目標をたてている。ミーティングの場など日常的に目標添った業務ができるように管理者から助言しています。	事業所目標として「基本にたちかえる(考える、行動する、振り返る)」を玄関に掲げ、利用者のニーズに合わせた支援を、職員自身が自分で考え、実践し、確認しあう職場環境作りに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭礼の際はお神輿がホーム寄る。納涼祭では地域の方にもきて頂き、一緒に楽しんだ。クリスマスや節分等の行事に地域のボランティアを呼ぶ。	ホームの納涼祭に地域の人を招待したり、ホームの行事に合わせて地域のボランティアの発表会(歌や踊り)を開催したり、利用者の散歩時に近隣の方との交流をもったりと地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、認知症ケアの実践を紹介した。まだまだ地域に発信していく必要がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度1回しか実施していない、今後開催数を増やしていく。	運営推進会議では、事業内容、行事の報告、情報交換が中心であるが、避難訓練の報告、施設の見学もあわせて実施し、意見交換に努めている。	事業所の取り組みを理解してもらい、地域の支援を得るためにも、運営推進会議を定期的で開催する取組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは日頃から密に連絡を取っているとはいえないが必要時には取り合い対応していく。	市からの要請に基づき、市内の老人ホーム間で災害時の協定を結び、避難時の介護の必要な人の当ホームでの受け入れなどを決め、行政との協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全を守る為、一時的にやむおえない場合は実施する事も検討するが、通常は拘束をしない。玄関含めた、施錠については、離脱してしまう方もいるので、場合によって一時的に施錠している。	身体拘束についての研修を実施し、具体的な事例を職員間で共有し身体拘束をしないケアを実施している。原則として昼間は玄関の施錠をせず、見守りや玄関に鈴をつけて対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で過度にストレスがかからないように、職員の心身面でのフォロー体制やチームワークを強化して、工夫して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会をもっていない。実際に成年後見制度を利用している利用者様も3名いる為、今後ミーティングにて研修を取り上げていく予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今年度、全利用者様のご家族を対象に新たにとりなおした。会社名や社長や介護保険制度の変更に伴って、以前の契約書とサービス内容に差が生まれた為		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意見、要望は日頃からのコミュニケーションから聞き、家族等の面会時にもまた意見、要望を聞くことがある。ご家族とも良い関係を作る事に留意し日々、話しやすい雰囲気作りを心がけている。電話連絡を密にとるようにしている。	家族会を年2回実施し、ホームでの生活状況をスライドショーにして上映したり、写真を多用した「やつか通信」を送付して、面会時家族が意見要望をだしやすいよう心がけている。職員の対応に対する家族の評価も高い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度ミーティングあり。その際意見や提案を聞く機会を設けており、反映させている。職員の考える力をつける為に、トップダウンの考えではなく、現場中心に考え実践することで、やりがいや質の向上を目指している	現場の職員からの提案を大切にしている。特にIT技術を積極的に活用し、グループ内のネットワーク掲示板に会議議事録などを掲載し、それに対する意見交換も自由にできるようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の考課面接がある。本人と話し合い、現在の評価次回の目標へと繋げる仕組みがある。評価によって昇給やボーナスの支給額を増減している。今年度は評価内容の数字を公開しなかったが来年は公開予定でいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内に研修委員会が設置されている。研修委員会以外の研修も盛んに呼びかけを実施している。千葉県福祉協議会の実践者研修・管理者研修も積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会、研修等で交流を行っている。他にも社内回覧板(ホットビズ)があり活発にグループ間で相談している。月一回グループ内で運営会議があり、その後管理者会議を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常からのコミュニケーションより信頼関係を築き、不安や要望について聞くよう努めている。 隣に座りゆっくりと一緒に過ごす事を大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安、要望について耳を傾け、問題解決、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族に必要な事は聞き、言い出しにくい事などは支援している中で見極め、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	必要とされていると思って頂けるよう、家事を一緒に行う等して、信頼関係を気付いている。その為出来る事はして頂くよう声掛けをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	納涼祭や食事界(家族と一緒に)などの行事に家族の参加をお願いし一緒に過ごして頂く。その際家族会を開いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	散歩やドライブに出る機会を設けている。 友人が来所することが多くある。	家族の迎いで、自宅に立ち寄ったり、友人の訪問も多く、親しく談笑されている。年賀状、手紙や電話のやり取りの支援もされている。行きつけの美容院や理髪店へ出かけるなど、おしゃれを楽しんでいる方も多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の間にも関わりを持つよう努めている。席の検討等頻繁に行われる。他利用者様との関係がうまくいかない方も職員が付き添い関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了するケースは少ないが、他施設への移動をする方にはサマリー等で情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい生活が支援出来るよう努めている。担当者会議を実施して、利用者様の真のニーズを検討し応えるように努力している。職員の気付きと工夫が出来る環境づくりに留意しています。	ひとり一人の思いや希望を把握し、その人らしい生活ができるよう、職員は表情や何気ない仕草での思いに気付くことを大切に、全員で確認し実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には、ご家族から発祥経過シート等をつかって情報収集をしている。、サービス各利用者のケース記録をファイルにまとめ確認をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常からのコミュニケーション、行動等により現状の把握に努めている。その為、行動記録や心身の状態など細かく記録に残すよう努めている。 また、利用者様の状況は常に変化するので対応も変化しなければいけない		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間では担当者会議を開催している。また、日々の情報共有や検討・実践が頻回に実施されている。	家族の話や日々の個別記録からアセスメント担当者会議で話し合い計画が立てられている。毎日の生活記録は「ちょうじゅ」介護システムに入力され、記録は全職員で共有している。本人にとっての最良の支援を可能にしている。	現在 IT技術が積極的に活用され、日々の支援に生かされているが、今後更にデータの使い方も含めて、IT技術の活用による介護の質の向上を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録等で常に記録を取り、申し送りや会議で情報共有をしている。提案されたケアについて失敗を恐れずに行う。その結果の評価をしている。 スタッフそれぞれが考えるケアを実践していけるように目指している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で考えるケアを実施している。認知症をもち変化する利用者様に対して、知り続ける探り続ける事を考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	四季を感じながら散歩に付き添う。年始には初詣の実施をする。地域の飲食店にも積極的に出かけている。行事の際にボランティアを呼び地域交流にも勤めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による訪問診察を月に2度実施している。普段の様子・変化を訪問診察時に主治医に報告して適切な医療を受けられるように支援している。	認知症専門医による月2回の診察があり、職員は普段の様子や変化を報告し、適切な治療の支援をしている。看護職員によるバイタルチェックや歯科医、リハビリの往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職員に現状を相談し、適切な支援が出来るよう努めている。気づいた事は職員間で必ず共有し報告するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院はグループ内の赤門整形外科内科が多い。病院関係者との情報交換をサマリー等で情報提供しあっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期について事業所でできる事を説明し可能な限りの支援を行っている。看取りに関しての意見をご家族から聞き取りしている。	入居時、当グループの医療機関との連携で看取り迄出来る事を説明している。「病気がなったときの対応」の冊子を用い家族と看取りについて話し合いを重ね、どのような終末期を迎えたいかの方針の共有に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応表にしたがって対応している。体調が変化した際は、人員の薄い夜間では不安がある為、日中のうちに医療職と連携して対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時緊急時対応にしたがって対応している。定期的に避難訓練を実施している。今年度は、グループ内の連携も訓練した。南房総市内の老人ホームで協定を結び協力体制を築きつつある。	災害時訓練は消防署立ち合いで行われている。定期的に避難、通報、消火訓練をし、グループ内の連携訓練も実施した。災害時の市内施設間の協力体制が構築されている。スプリンクラー、消火ホース等の防災設備も完備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の方と言う気持ちを常にもち、声掛けの内容について考えながら対応している。 グループ内に接遇委員会があり、他事業所とも情報・気付きを共有している。	誇りやプライバシーを大切にされた言葉掛けを行っている。接遇委員会ではグループ全体で丁寧な言葉使いについて職員の意識づけの徹底を図っている。利用者の表情には自己決定できる自信や明るい笑顔が見える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な制限を設けず、自己決定出来るような声掛けをしている。自由な環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いのないよう、できるだけ利用者ペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同じスペースで食事を摂り、食器の片づけが出来るとは一緒に行っている。	美味しい食事を提供できるよう調理専門のスタッフを配置している。毎月の行事食や外食なども盛り込み、食事の楽しみを大事にしている。出来る方は片づけなど一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	夏・冬と脱水症がおおくあった。「ちょうじゅ」をもちいいて、情報共有がしっかりできる体制がある。食事、水分量の記録を取り、必要量が確保出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は出来ていないが最低、一日一回は口腔ケアを促し、必要に応じ介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を取り、排泄パターンを把握するよう努めている。 トイレでの排泄が出来るよう定期的に誘導、支援を行っている。	排泄のパターンを把握し、トイレでの排泄が出来ている、声掛け誘導も羞恥心に配慮した気付きの支援が行われている。水分補給運動を促し、薬剤に頼らない排便を工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響を理解し、排便の状況を把握、水分補給、運動を促している。 ヨーグルト・牛乳等下剤に頼らないケアを実践している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の曜日を決め入浴を支援している。 希望のある利用者様は午前・午後に本人のご都合に合わせて支援しています。	入浴は週2回を基本としているが、個別の希望にも対応している。入浴の難しい方は、チームで声掛けやタイミングを工夫して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者の日中の休息については自己決定によって行っている。 昼夜逆転を避けるよう日中に休息し過ぎないように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者が服薬している内容がいつでも確認できるようファイルにまとめている。追加になった薬など常時経過観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一緒に歌を唄ったり、散歩やドライブ、買い物に出掛ける、作品を作成等を行っている。 家事が出来る方には一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブに出る機会を設け支援している。 行事として出掛ける場合には普段行かないような場所を計画している。 面会により家族と利用者が一緒に出掛け、外食・外泊も多くある。	天気の良い日はホームの周りの散歩が日課で、健脚の方の2時間コースのウォーキングも支援している。元気な方はスーパーの買い物に職員を手伝って一緒に行ったり、房総の自然や名勝地めぐりを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週に1回以上、職員が買い物の代行をしている。ドライブがてら一緒にお買い物をする事がある。利用者様によっては小額のお金をご自身にて管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りが出来る方の申し出により、ハガキ等を購入し、投函の支援をしている。利用者本人が電話のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適温であるようコントロールをしている。季節感を感じるよう花を飾る等している。共用空間はこまめに掃除を行っている。殺風景にならないように製作物等、壁に貼り、展示している	北欧風の建物は天井が高く、リビングはカーテン越しの日差しが明るくゆったりとしている。利用者による手芸や絵等の作品が季節に合わせ展示されている。広いベランダと芝生は家族を交えたイベントの会場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの設置位置を工夫し、独りで過ごしたり、利用者同士で過ごせるような場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたものを使用し、生活している。	使い慣れた家具や小物で自分らしい部屋の工夫がされている。畳の生活の方、本に囲まれて読書の方、将棋のゲームに夢中の方とそれぞれの個性を尊重した、居心地良く過ごせる支援がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置。 トイレのマークを設置しわかりやすくしている。 窓に放尿があり鳥居のマークを利用し放尿を防いでいる。		